



# 日本赤十字社 和歌山医療センター

Japanese Red Cross Society

## 医療連携だより

夏号

No. 82



和歌山市小松原通四丁目20番地 (発行責任者)  
TEL : 0120-965-582 (医療連携課) 管理局長 内田 一彦  
FAX : 0120-937-510 (医療連携課) e-mail : renkei@wakayama-med.jrc.or.jp



## コロナ医療と救急医療

院長補佐、高度救命救急センター長 中 大 輔

日頃から数多くの症例を御紹介頂きまして誠に有難うございます。

2020年2月14日、和歌山県で最初のCOVID-19陽性患者さんを受け入れて以来、当センターは陽性患者さんばかりでなく疑陽性や濃厚接触者なども含めると、1000名近い入院患者さんを治療してきました。2020年11月初旬から4か月間に亘り蔓延した第三波では、高齢者施設でクラスターが頻発したことにより、介護度の高い高齢者や認知症患者さんなどの入院が多くを占め、病棟運営は非常に苦労しました。また2021年3月中旬からの第四波は、従来株から変異したアルファ株の影響で重症患者さんの占める割合が非常に高くなり、若年層でも重症化する症例を数多く経験しました。同年8月中旬からの第五波はデルタ株を中心としたもので、新規陽性患者数が一気に増加し、県全体でのコロナ専用病床利用率が最大96.5%にまで達しました。当センターでも県からの増床要請に応じ、専用病床を60床にまで拡充し、対応しました。

しかし2022年1月からのオミクロン株による第六波は、私たちの想像を絶する勢いでその感染は拡大しました。和歌山県知事の主導のもと、「新規陽性患者全員入院療養」をコロナ医療の根幹に掲げ、第五波までは全員入院を堅持してきました。しかし第六波の感染拡大のスピードは、これまでの経験を凌駕する速さであり、既に1月中

旬の時点で「新規陽性患者全員入院療養」は不可能となり、和歌山県においても「自宅療養」と「ホテル療養」の患者さんが一気に増加しました。

この第六波では、本センターでも今まで経験したことがなかった「救急医療の崩壊」を目の当たりにする事態に陥りました。自宅や高齢者施設での療養を余儀なくされた多くの高齢患者さんのうち、状態が悪化（高熱による意識障害や呼吸不全）する患者さんも少なからず認められました。このような患者さんに対し、訪問診療で対応できるシステムが構築されていなかったため、多くの患者さんが救急要請をしなければならない状況に追い込まれたのです。救急要請があれば救急隊は必ず自宅や施設まで駆けつけ、患者さんを救急車内に収容します。しかし時間外、特に夜間に中等症以上のCOVID-19患者さんを受け入れる医療機関は少なく、多くの患者さんが当センター救急外来に搬入されてきたのです。その中には意識状態や呼吸不全が重篤であり、いわゆる三次救急レベルの患者さんも多数存在していました。2022年2月11日の建国記念日、3名のCOVID-19患者さんが救急外来へ搬入されてきましたが、3名ともICUでの治療を要するような重篤な状態であり、以前からICUで加療していた2名の陽性患者さんと合わせ、5名の陽性患者さんをICUで管理しなければならない事態となったのです。通常、ICUでは入院患者2名をナース1名で看護する2対1看護が



基本ですが、COVID-19 患者さんの場合、患者さん1人に1.5人のナース（通常の3倍）が必要となります。その結果、この日はICUに一般の重症患者さんを受け入れることが不可能となり、わずか数時間でしたが三次救急（ホットライン）に対応できない時間帯ができてしまいました。本センターに勤務して20年、小生にとっても初めての経験でした。また軽症や中等症のCOVID-19患者さんでも、救急要請したものの受け入れ医療機関がなかなか決まらず、救急車で長時間過ごさなければならない事態も多発しました。本センター救急外来では、急遽、ビデオモニター付きの専用個室を3部屋増設し、このような患者さんの受け入れにも柔軟に対応しました。

第六波では、COVID-19患者さんの受け入れで、一般の救急患者さんの受け入れを制限しなければならぬという非常に辛い経験をしましたが、これを教訓に今後、同じような状況に遭遇しても、救急症例の受け入れを制限せずに済むように、救急外来、救急病棟、集中治療室の体制強化を図っています。

オミクロン株は変異を続けており、COVID-19の収束には今しばらく時間を要すると思いますが、職員一同、COVID-19治療と救急医療、高度医療を並行して実践できるように全力を尽くす所存です。

一層の御指導と御鞭撻を何とぞよろしくお願い申し上げます。



## がんセンター通信 ⑥

(肺がんユニットの現状)

呼吸器内科主任部長  
(肺ユニット長)

杉田 孝和



肺がんは本邦における悪性新生物の死因の第一位であり、和歌山県は肺がん死亡率が高い県の一つとなっています。肺がんの治療には、外科的切除、薬物療法、放射線治療があり、がんの種類と進行度、また患者さん状態により適切な治療法を考えていく必要があります。肺がんユニットでは、呼吸器外科、呼吸器内科、放射線治療科が連携し、合同カンファレンスにて治療方針の協議を行っています。例えばⅢ期の非小細胞肺がんの場合、外科的切除、薬物療法、放射線療法を組み合わせたさまざまな集学的治療が存在し、3つの科が協議を行い、その患者さんにあった最善の治療方針の検討を行っています。

昨年の実績としましては、呼吸器外科で肺がん158例、転移性腫瘍25例、縦隔腫瘍16例の手術を行っています。肺がんの手術は、低侵襲の胸腔鏡下手術が基本となっており、入院期間も短縮傾向にあります。呼吸器内科では、がん薬物療法として2689件の点滴治療を行っています。免疫チェックポイント阻害剤が使用されることも増え

てきており、また、がんの発生、増殖に関わる遺伝子をターゲットとした個別化治療もさらに進んできており、遺伝子変異に応じた内服薬による治療も数多く行っております。放射線治療は、強度変調放射線治療や定位放射線治療といった高精度放射線治療を実施しており、手術困難な早期肺がんの治療や、局所進行肺がん薬物療法や外科的切除を組み合わせた根治を目指した治療として、また、骨転移や脳転移などの緩和照射、あるいは、転移の個数が少ない場合には（オリゴ転移）、準根治を目指す治療法としても行っています。

肺がんユニットでは、豊富な診療実績、経験豊かな専門医、高度な医療機器を有しており、呼吸器外科、呼吸器内科、放射線治療科が緊密に連携し、最新のエビデンスに基づいた質の高い医療の提供を提供できるよう、また、患者さんに十分説明を行い、患者さん自らの治療意思決定の心強い支えになるように努めております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 令和4年度診療科別合同セミナー・講演会実施一覧

当センターでは、各種講演会を実施しています。開催時には、随時ご案内しますので是非ご参加ください。

日時	診療科	会合・講演会名	場所	参加人数 (合計)
4月27日(水)	腎臓内科	CKD地域連携講演会	WEB配信	27名
5月9日(月)	糖尿病・内分泌内科	Hypertension Treatment Seminar	WEB配信	33名
5月19日(木)	循環器内科	循環器疾患連携 Seminar	WEB配信	31名
5月25日(水)	整形外科	2022年和歌山県骨折リエゾンサービス地域連携セミナー ～二次骨折を起こさない為の骨粗鬆症リエゾンサービス～	WEB配信	27名
5月26日(木)	呼吸器内科	一咳・痰 問題解決！ 和歌山 COPD 勉強会	WEB配信	42名
5月31日(火)	循環器内科	心不全 Treatment Seminar	WEB配信	30名
6月2日(木)	救急科・集中治療部 呼吸器内科 精神科	睡眠薬適正使用セミナー in 和歌山	WEB配信	194名
6月9日(木)	脳神経内科 脳神経外科	片頭痛治療 Up to Date ～地域で取り組む頭痛診療～	WEB配信	28名
6月16日(木)	血液内科 呼吸器内科	AYA 世代がんのいまと未来をみんなで考える ～未来への希望になる妊孕性保存～	WEB配信	93名
6月23日(木)	循環器内科	心不全地域医療連携を考える会 in Wakayama	WEB配信	75名

### 就任のお知らせ

7月1日付

救急科・集中治療部 **大 漣 玄 徳** (専攻医)

上記の職員が新たに就任いたしました。  
よろしくお願ひします。



### 退職のお知らせ

5月20日付

皮膚科 **奥 平 尚 子** (医師)

6月30日付

眼科 **黒 田 健 一** (副部長)

消化器外科 **細 川 慎 一** (副部長)

耳鼻咽喉科 **石 田 宏 規** (医師)

病理診断科 **石 田 文 美** (医師)

救急科・集中治療部 **山 崎 一 幸** (医師)

救急科・集中治療部 **前 村 早 希** (専攻医)

救急科・集中治療部 **原 千 明** (専攻医)

上記の職員が退職いたしました。  
大変お世話になりました。



# 紹介初診患者診察担当医師表

2022年7月1日現在

ユニット名 / 診療科名	月	火	水	木	金	
消化管ユニット	消内	部長 赤松 拓司 副部長 辰林 太一	副部長 中谷 泰樹 副部長 奥村 公一	副部長 岩上 裕吉 副部長 宮本 匠	部長 赤松 拓司 部長 山下 好人	副部長 中谷 泰樹 《交替制》
	外科	副部長 山田 真規	—	副部長 横山 智至	副部長 川添 准矢	部長 伊東 大輔
肝胆脾ユニット	内科	副部長 松本 久和	主任部長 上野山 義人	森村 博樹	副部長 松本 久和	主任部長 上野山 義人
	外科	—	—	—	副部長 川添 准矢	部長 安近 健太郎
肺ユニット	呼内	主任部長 杉田 孝和	副部長 堀川 禎夫	河内 寛明	部長 池上 達義	副部長 寺下 聡
	呼外	—	部長 石川 将史	—	—	部長 石川 将史
※乳腺ユニット	乳外	副部長 鳥井 雅恵	—	部長 松谷 泰男	副部長 鳥井 雅恵	部長 松谷 泰男
前立腺・尿路ユニット	泌尿	部長 玉置 雅弘 副部長 中嶋 正和	主任部長 伊藤 哲之 副部長 中嶋 正和	—	部長 玉置 雅弘 山田 祐也	主任部長 伊藤 哲之
	整形	—	—	部長 玉置 康之 副部長 古川 剛	—	—
脳ユニット	脳外	部長 津浦 光晴	—	—	—	—
血液ユニット	血内	副部長 田中 康博	部長 直川 匡晴	副部長 岡 智子	副部長 田中 康博	田村 啓人
※原発不明ユニット	腫内	—	—	—	川上 尚人	—
※遺伝性腫瘍ユニット	—	—	—	副部長 豊福 彩(午後)	川上 尚人	—
※放射線治療科	放治	副部長 小倉 健吾	部長 根来 慶春	平岡 真寛(午前)	部長 根来 慶春	副部長 小倉 健吾
		—	—	《交替制》(午後)	—	—
※緩和ケア内科(午後)	緩和	部長 一宮 正人	吉村 聖子	筒井 一成	筒井 一成	今泉 澄人

消化器内科	院長 山下 孝幸	主任部長 上野山 義人	副部長 瀬田 剛史	部長 赤松 拓司	主任部長 上野山 義人
	部長 赤松 拓司	副部長 浦井 俊二	副部長 岩上 裕吉	副部長 浦井 俊二	副部長 中谷 泰樹
	副部長 瀬田 剛史	副部長 中谷 泰樹	森村 博樹	副部長 松本 久和	小西 隆文
	副部長 松本 久和	中野 省吾	下山 雅之	松山 和輝	荻野 真也
消化器外科	副部長 枝川 剛也	筑後 英紀	外村 晃平	脇田 碧	寺下 友子
	副部長 堀 悠佑	—	—	北田 智也	—
	野間 淳之	副院長 宇山 志朗	副部長 一宮 正人	副院長 宇山 志朗	佐倉 悠介
	—	青山 誠平	—	—	—
呼吸器内科	副部長 渡邊 創	副部長 堀川 禎夫	河内 寛明	部長 池上 達義	副部長 寺下 聡
	—	《睡眠時無呼吸専門外来》	—	濱田 健太郎	—
呼吸器外科	—	部長 石川 将史	副部長 福井 哲矢	—	部長 石川 将史
	—	—	—	—	—
循環器内科	部長 豊福 守	副部長 田崎 淳一	副部長 渡辺 大基	辰島 正二郎	藤田 啓誠
	伊勢田 高寛	辻 修平	伊勢田 高寛	—	—
糖尿病・内分泌内科	副院長 井上 元	副部長 廣島 知直	副部長 稲葉 秀文	副部長 廣島 知直	副院長 井上 元
	副部長 藤藤 光歩	部長 東 義人	副部長 杉谷 盛太	部長 東 義人	副部長 杉谷 盛太
腎臓内科	内川 宗大	藤藤 光歩	小椋 翔太	前沢 浩司	大森 翔平
	小西 放	児玉 健志	—	柳屋 明	—
	—	—	—	—	—
※心療内科	副部長 今泉 澄人	—	副部長 今泉 澄人	—	副部長 今泉 澄人
※リウマチ科	秋月 修治(第1・2・4・5)	岡本 翔太	船越 莊平	—	別役 翼(第1・3・5)
感染症内科	中島 友也(第2・4)	—	納田 安啓	—	—
	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》
※脳神経内科	部長 山下 博史	副部長 神辺 大輔	部長 山下 博史	平田 真也	副部長 神辺 大輔
	湯川 佳代子	岡 佑和(隔週)	大原 寛明(隔週)	木下 久徳	松本 瑞樹(隔週)
	山中 治郎(隔週)	菊谷 明広(隔週)	河村 祐貴(隔週)	—	平山 典宏(隔週)
	友田 陽子(隔週)	—	—	—	—
※漢方内科	—	—	部長 山田 伸	—	—
皮膚科	《交替制》	宮崎 健	《交替制》	大橋 理加	部長 辻岡 馨
小児科	副部長 濱畑 啓悟	副部長 深尾 大輔	副部長 原 茂登	副部長 濱畑 啓悟	部長 吉田 晃
	副部長 杉峰 啓憲	副部長 坂田 匡彦	副部長 横山 宏司	副部長 杉峰 啓憲	副部長 横山 宏司
※精神科	—	—	—	—	坂部 匡彦
心臓血管外科	部長 東 睦広	—	部長 金光 尚樹	部長 東 睦広	—
	—	—	《静脈瘤外来》	—	—
小児外科	—	副部長 横山 智至	副部長 横山 智至	—	—
整形外科	部長 玉置 康之	副部長 田中 康之	副部長 田中 康之	部長 玉置 康之	副部長 田中 康之
	副部長 田中 康尚	小椋 隆宏	副部長 古川 剛	小椋 隆宏	副部長 古川 剛
眼科	副部長 中田 旭彦	伊藤 貴之	副部長 伊藤 貴之	室谷 和弘	副部長 武本 直樹
	川島 祐	副部長 三木 敏耶	部長 荻野 顕	《交替制》	部長 荻野 顕
耳鼻咽喉科	川島 京子	—	《交替制》	—	—
産婦人科	部長 三浦 誠	《交替制》	部長 三浦 誠	副部長 木村 俊哉	副部長 辻村 隆司
	副部長 山西 優紀夫(第1・3・5)	副部長 豊福 彩(第1・3・5)	平山 貴裕(第1・3・5)	副部長 坂田 晴美(第1・3・5)	部長 吉田 隆昭
泌尿器科	副部長 山村 省吾(第2・4)	日野 麻世(第2・4)	春日 摩耶(第2・4)	副部長 横山 玲子(第2・4)	—
	部長 玉置 雅弘	主任部長 伊藤 哲之	—	部長 玉置 雅弘	主任部長 伊藤 哲之
歯科口腔外科	副部長 中嶋 正和	副部長 中嶋 正和	—	部長 玉置 雅弘	副部長 山田 祐也
	高橋 俊文	太田 秀人	—	高橋 俊文	副部長 磯 達也
脳神経外科	—	副部長 清水 航治	部長 平石 幸裕	副部長 清水 航治	部長 平石 幸裕
	《交替制》	佐武 明日香	—	—	—
※麻酔科	—	副部長 武本 英樹	《交替制》	部長 津浦 光晴	—
形成外科	—	副部長 吉村 聖子	宮崎 里紗	—	副部長 片岩 真依子
—	部長 奥村 慶之	—	中林 容	和田 詩織	中林 容
—	《小児形成外科外来》	—	—	—	—

赤字…女性医師 ※…完全予約制